

鎌倉総第3227号

平成30年1月25日

鎌倉市議会議長

山田直人様

鎌倉市長 松尾



文書質問への回答について

標記の件につきまして、別紙のとおり回答します。



事務担当

総務課総務担当（内線2242、2243）

議会受付番号	文書質問第4号
質問者	高野 洋一議員
答弁する者	(健康福祉部市民健康課)

文書質問に対する答弁書

鎌倉市議会基本条例第7条第3項の規定に基づく文書質問第4号の質問について、次のとおり答弁いたします。

1 質問の内容

産科診療所ティアラかまくらは、開設から9年間で2,171名の出産数となり、今後も年間155人～160人程度の出産が見込まれると聞いている。一方で、補助金の負担増が課題となっていると認識しているが、医師会の考え方を踏まえ、市と医師会が力を合わせて出産・産後に係る環境整備を進めていくよう建設的かつ前向きな協議を要望するものである。今後の協議状況を含め、今後の運営に関する市の基本的な見解を伺いたい。

2 質問の理由

ティアラかまくらは市内とりわけ鎌倉地域に産科がなくなる事態の中で、市と医師会が協議し、市として医師会に運営をお願いし、医師会立として開設され現在に至っているものである。ティアラかまくらは、妊娠から出産・産後に至るまで総合的なケアを切れ目なく行うことが可能であり、現在もなお鎌倉地域唯一の分娩施設となっている。産科の動向は、近年、新規開設の動きもある一方、依然として今後の先行きには不透明な状況もあることから、市が依頼して設立した医師会立のティアラかまくらの前向きな発展と運営の改善にこそ取り組むべきである。

3 答弁

平成20年度における市内の産科医療機関は1医療機関であり、そのベッド数は26床で、市内での出産率は約31%でした。そのような状況を改善するため、平成21年2月にティアラかまくらが開設され、産科のベッド数が34床になりました。その後、平成25年には46床に、さらに平成28年度には65床になりましたが、市内での出産率はここ数年55%程度で頭打ちになっていることから、ティアラかまくらが閉院し、57床になったとしても、市内で出産を希望する方が、市内で出産できる環境は整ったと考えています。

また、本市の平成27年度の合計特殊出生率は1.20ですが、「鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンでは、希望出生率を1.74としています。もし、10年後の平成38年に、この希望出生率が達成されたとしても、子どもを産む女性の数が減少していくため、年間出生数は約1,200件となり、鎌倉市内の出産できる環境を考えると、出

産希望者が市内で出産できる状況は、維持できるものと考えています。

一方、ティアラかまくらに対する補助金をみますと、設立当時は概ね300分娩を確保できれば5,000万円程度の補助金で運営できると試算していましたが、年々、分娩数が減少し続けているため、29年度の補助金は、当初予算額で約1億3,000万円となっています。このまま何の対策を講じず補助金を出し続けることは財政的にも難しいことから、市から医師会に対し事業転換案を提示し協議してまいりました。

平成30年1月12日に医師会から市の提案に対し、医師会としての改善策を盛り込んだ、ティアラかまくらの存続を求める旨の要望書が提出されたことから、ティアラかまくらのあり方について建設的な方針を見出すため、引き続き医師会と協議・検討してまいります。